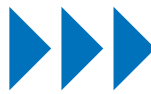


空から海から。 未来には想像を超える景色が待っていた！

この教科書の1章の著者 氏家祥美



高校生のころの私



現在の私

いまから30年以上前、高校入試の国語のテストに「『百聞は一見に如かず』ということわざを使って作文を書きなさい」というお題がありました。受験生だった私が何を書いたかはよく覚えていませんが、このことわざが強く印象に残っています。

高校時代はわりとおとなしかった記憶がありますが、大学ではたまたま誘われた熱気球サークルに入って、空から景色を見ることに。広がる田んぼの上空で、朝日を見ながら食べるおにぎりの美味しかったことを覚えています。大学を卒業後は、旅行会社に就職。営業担当をしながら、時々、添乗員として日本中を旅していました。

そこから月日が流れて、いまはファイナンシャルプランナーとしていろんな世代の方のお金や人生のご相談に乗っています。一人ひとりが見ている心の景色に寄り添って、数字を使って課題を解決するお仕事です。旅行会社とはまったく違う仕事ですが、「お客様が見たい景色を見るためのお手伝いをする」「うれしそうな笑顔に出会える」という点では共通しています。

3年前から水泳の練習を始めて、最近は海に潜る趣味もできました。旅先でカメと一緒に泳げたときは嬉しかったです。まさに百聞は一見に如かず。自分の目で見て、体験してみると世の中は面白いことばかり。高校生のときには、こんな未来が待っているとは想像すらできませんでした。皆さんもきっとこれから、いまの想像を超える体験がいろいろ待っていると思います。未来の自分に、期待してくださいね。